

事業区分	文化芸術事業		育成創造事業									
事業名	平成19年度 鳥取県演劇創造事業		助成	財団法人地域創造								
目的・内容	<p>演劇を学ぶ場を提供する事で、鳥取県の演劇人のレベルアップを図る。また、作品を上演する事で、演劇愛好者の裾野の拡大を図る。更に、戯曲講座にて鳥取県オリジナル戯曲を創造する。</p> <p>【使命】文化人口の拡大とレベルアップ、多彩な人材育成とキャリア開発</p> <p>【事業の柱】文化活動実践者との協働による自主企画と自主制作の事業推進、県民が気軽に創造的自己表現ができるような会館施設の開放と事業参画の推進</p>											
開催日時	<p>〔戯曲講座〕 平成19年6月24日(日)14:00~20:00、平成19年8月26日(日)14:00~20:00 平成19年9月2日(日)14:00~20:00、平成19年11月4日(日)14:00~20:00 平成19年12月23日(日)14:00~20:00 計5回開催</p> <p>〔ドラマリーディング〕 平成20年2月3日(日)14:00~16:30</p> <p>〔演劇公演「火のようにさみしい姉がいて」〕 平成20年3月8日(土)18:30~20:30、9日(日)13:30~15:30</p>											
会場	<p>〔戯曲講座〕 鳥取県民文化会館 第4会議室、鳥取市立久松地区公民館、米子市立啓成公民館 淀江文化センター 第2会議室</p> <p>〔ドラマリーディング〕 鳥取県民文化会館 リハーサル室</p> <p>〔演劇公演「火のようにさみしい姉がいて」〕 米子市文化ホール</p>											
入場料・参加費 (友の会)	一般1,000円 (900円)	大学生以下500円 (400円)	※ 戯曲講座参加費 5,000円 ※ ドラマリーディング 無料 ※ オーディション参加費 1,000円									
集客状況	入場者数 <ul style="list-style-type: none"> 〔戯曲講座〕 定員5名 〔ドラマリーディング〕 62名 〔演劇公演〕 324名 	設定席数	〔演劇公演〕 1,156名	集客率 〔演劇公演〕 28%								
事業費状況	<table border="1"> <tr> <td>予算額</td> <td>収入 666,000円</td> <td>支出 11,438,000円</td> <td>収支比率 6%</td> </tr> <tr> <td>決算額</td> <td>収入 431,500円</td> <td>支出 9,076,667円</td> <td>収支比率 5%</td> </tr> </table>	予算額	収入 666,000円	支出 11,438,000円	収支比率 6%	決算額	収入 431,500円	支出 9,076,667円	収支比率 5%			
予算額	収入 666,000円	支出 11,438,000円	収支比率 6%									
決算額	収入 431,500円	支出 9,076,667円	収支比率 5%									
来場者アンケート (主なもの)	<p>《公演について》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・舞台セットにとっても興味を持ちました。次回、このような機会の時は、是非、参加したい。 ・ギャグかシリアスか塩梅の分からない箇所はあったが、たまにはこういうのも面白い。 ・話の内容がつかみづらかったが、進行していくにつれ、人としての様々な部分を考えさせる感覚にとらわれた。 ・欲を言えば、もう少し分かり易いものが観たい。 ・以前と同じようなテイスト。もう少し、違うものも観てみたい。 <p>《会場・設備・係員について》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・笑顔で対応してくださり、感じ良かった。 ・子どもの託児が欲しい。妻が来られなかった。 ・開演直前のあの音楽、音量、耐えられない。 ・会場が寒かった。 											
1次評価 (内部)	<p>〔成果〕</p> <ol style="list-style-type: none"> ①上演する戯曲を地域活動者と協議した事で、戯曲を読む機会を提供し、創造過程へ興味をもって係って頂く事が出来た。 ②戯曲の難易度が高かったため、中核的な演劇人を育成する上で、よい経験になった。 ③男性顧客の発掘の為、30~50代の男性を意識したキャッチコピーとチラシデザインを検討した。結果、男性客が全体の4割弱を占め、前年比10%以上の伸びを示した。 ④学ぶ場を提供する為、戯曲講座の見学者枠、演出助手チームの設立、稽古場見学などを実施した。結果、事業を支える地元活動者が増えた。 <p>〔課題〕</p> <ol style="list-style-type: none"> ①作品選びの際、鑑賞者開発の視点も必要。 ②スタッフの継続的な人材育成が必要。 ③事業実施のための職員体制が課題である。 ④稽古場の確保が難しい。 											
財団評議員の 評価	<p>〔成果〕</p> <ol style="list-style-type: none"> ①地元企業からの協賛金は、自主財源以外の資金調達の一環として評価したい。 ②費用面では、今公演は外資導入率が50%近くで評価したい。 <p>〔課題〕</p> <ol style="list-style-type: none"> ①西部駐在の二人体制の実現で、担当の負担軽減を図って欲しい。職員の労働環境整備も大切。 ②全体を総括すると「いまひとつ」の事業だった。関係者の頑張りにはわかるが、数百万円の税金を使っている事業であり、サークル活動などではない。頑張ったことで評価が自己満足になってはいないか。もっと良くしていかなければならない事業だと思う。 											
今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・人材育成と鑑賞者開発のバランスをとり、観る側に立った企画立案・運営が行われているか、再度、点検する。 ・演劇初心者と中核的演劇人のニーズに対応したプログラムづくりを検討する。 ・事業実施における職員体制を検討する。 ・オーディションに参加する数が少ない男性の取り込み方法を検討する。 											